

# 「美学学校諏訪分校」再び脚光

観念美術で知られた芸術家松沢宥さん（1922～2006年）の「生誕100年祭」のメイン会場、下諏訪町諏訪湖博物館・赤彦記念館で、松沢さんがかつて諏訪市で開いた「美学学校諏訪分校」が紹介されている。自身の美術思考を諏訪に広める拠点にしようとした学校だ。そこで油彩画を学んだ同市の加藤佳男さん（82）は「松沢さんと分校が再び脚光を浴び感慨深い」と喜んでいる。

## 芸術追究の拠点

### 腕磨いた日々 元生徒感慨

美学学校は1969年に美術、音楽、メディア表現などを学ぶ私塾として東京・神田で設立。著名な芸術家らが講師を務め、松沢さんも同町から通って演習を受け持った。73年に松沢さんが中心になり同市岡村の諏訪二葉高校女子寮の一室を借りて分校を開設。県内外から生徒を募り、東京から講師陣が通ってきた。

模写やスケッチで腕を磨き、「芸術について和気あいあいと語り合った」という。「最終美術思考工房」と題した講義をしていた松沢さんと話す機会もあった。「木の枝や葉を捨てるのではなく、拾っていくことが身に染みる」。投げかけられた言葉は難解だったが、心の中にずっと残っている。

文字や記号、パフォーマンスなどで表現活動をしていた松沢さんとの出会いは、「美術の概念を見つめ直すことになった」と加藤さん。分校は76年に閉校し、今では地元で知る人も少なくなったが、「さまざまな人が集い、芸術を追究した学校があったことを知ってもらえればうれしい」と話している。



かとう食堂に今も張ってある美学学校諏訪分校の生徒募集ポスターと加藤さん

現代美術に興味があり、近くで「かとう食堂」を営む加藤さんは、生徒募集のポスターを目にして34歳で入学。政

## 松沢さんの作品「まちなか展覧会」

### 来月21日まで延長

芸術家松沢宥さんの「生誕100年祭」の実行委員会が、来場者が多く、展示も好評なことが理由という。

松沢さんの作品や資料を飾る「まちなか展覧会」の会期を3月21日まで延長すると決めた。

今月13日までの予定だったが、来場者が多く、展示も好評なことが理由という。

展覧会では、メイン会場の諏訪湖博物館・赤彦記念館に加え、同町と諏訪市の喫茶店



## 氷瀑 青さ際立つ 茅野・横谷溪谷

標高1250mにある茅野市の横谷溪谷の屏風岩氷瀑で、高さ約5m、幅30～40mの氷柱を楽しむことができる。立春を過ぎ、日差しが徐々に春めいてきているが、ここでは3月ごろまで真冬の造形が見られそうだという。

しい冷え込みの日が多い今冬は近年にない立派な氷柱ができている。8日、栃木県から氷瀑の動画を撮りに訪れた映像作家の小川洋さん（65）は「去年より氷の出来がいい。氷の青さもすごいですね」と話していた。

茅科中央高原観光協会によると、厳

氷柱が連なる屏風岩氷瀑 8日

や旅館、商店など計11施設で、長い間公開されてこなかった貴重な作品や資料を飾っている。実行委は「それぞれの会場での個性あふれる展示を楽しんでほしい」とする。

同記念館での展示費用などを賄うため、実行委はクラウドファンディング（CF）で、今年13日に同記念館で予定した諏訪市の芸術家宮坂了

額120万円。3月21日までCFサイト「レディーフォ」で受け付ける。寄付額に応じて、松沢さんの作品「消滅の幟」をモチーフにしたオリジナル手拭いなどの返礼品を用意している。

一方、新型コロナ対応として、今年13日に同記念館で予定した諏訪市の芸術家宮坂了